

民報 ゆうばり

アベ改憲させない共同を地域から！

労働組合が減って、賃金が下がった！消費税上げずに、賃金上げろ！



南空知憲法共同センター 総会・記念講演開催！

12月16日、「南空知憲法共同センター」の総会と記念講演が岩見沢市民会館で開催されました。ト部喜雄共同代表が「来年はイノシシ年、アベ暴走政権を止めるために、市民と野党の共同の力で、一斉地方選挙・参議院選挙に勝利しましょう」と年賀状で訴え

市民と野党の共同選挙で決着をつける！

ることにしました」と挨拶しました。立憲民主党の神谷裕衆議院議員のから、来賓挨拶がありました。神谷議員は「今回の臨時国会は、民

主主義を破壊するひどい・情けない・悲しい臨時国会であった」と国会報告をしました。

さらに、「紙智子参議院議員は、漁民の声を涙で訴えました。農業も漁業も切り捨てられるという総理は、一日も早く退陣していただきたい」と結びました。

記念講演では「アベ改憲させない共同を地域から」と題して、全労連の黒澤幸一事務局次長が労働運動の観点から、話をしました。

安倍改憲NO！3000万人署名 市内で2000筆、達成！

協力してくださいましたみなさん
ありがとうございます！

安倍改憲NO！憲法を生かす全国統一署名

2017年5月3日、安倍首相（当時）が、現行の憲法を改定し、2020年に国民投票を行うと発表しました。この発表を受けて、市民の憲法への愛護と、改定を阻止する目的で、日本各地で署名活動が展開されています。市民の声を届けるために、日本共産党の指導で「安倍改憲NO!」の署名活動が展開されています。

署名活動は、安倍改憲を阻止し、憲法を護衛する重要な活動です。市民の声を届けるために、日本共産党の指導で「安倍改憲NO!」の署名活動が展開されています。

署名活動は、安倍改憲を阻止し、憲法を護衛する重要な活動です。市民の声を届けるために、日本共産党の指導で「安倍改憲NO!」の署名活動が展開されています。

署名活動は、安倍改憲を阻止し、憲法を護衛する重要な活動です。市民の声を届けるために、日本共産党の指導で「安倍改憲NO!」の署名活動が展開されています。



な時間がないので、新しい服が欲しいなどの物欲もなくな

る」との悲惨な状況を報告。さらに「この20年、労働組合が減り、賃金が下がっている。歯止めなき防衛費の増大をやめさせる。そして、消費税を上げるために、市民と野党の共同を地域から広げることが重要。そのためには、選挙で決着をつけましょう！」と参加者に訴えました。

総会は、2018年の求めと報告、会の提案が全会一致で承認されました。さらに、各地域からの運動の報告が続きました。南空知での「安倍改憲NO!」3千人署名は、目標の1万9千筆を上回りました。勢いであることが報告され、大きな拍手の中、総会は終了しました。

12月10日、夕張労連・新婦人夕張支部・ゆうばり女性9条の会・明日の平和をつくりだす夕張の会、などで取り組んでいる「安倍改憲NO！3000万人署名」は、目標の2000筆を達成しました。

昨年、9月から始まり、約15ヶ月かかりましたが、市民の4人に1人（25%）の2000筆を集めました。この署名は、国会へ届けます。

3年前の戦争法の時は、1800筆の目標を南空知で唯一達成した夕張。今回は、栗山（2000筆）、由仁（800筆）に次いで、とうとう夕張も目標に達しました。協力いただいたみなさんに、心より感謝いたします。

改憲も暴走政治も終わりに！ 平和こそ女性の願い！ 国連NGO新日本婦人の会 第50回夕張支部大会 開催

「来賓として出席し、会員でもあるくまがい桂子市議が、「財政破たん以来、住民自治の夕張をつくり、安心・安全の夕張の暮らしをまもるために、党派を超えた市民運動や平和運

12月16日、ゆうばりはまなす会館において、第50回新日本婦人の会夕張支部大会が開催されました。久世公子支部長の開会挨拶後、来賓として出席した夕張労連の筒井勇治議長から、「沖繩の辺野古埋め立てに対する政府の強権的なやり方や、消費税増税は許せない。みんな力を合わせて、安倍暴走政治を止めよう」等の挨拶がありました。

動に力を入れて活動してきました。昨年、『核兵器禁止条約に速やかに署名し、批准することを求める意見書』『日本国憲法第9条改正に反対する意見書』全会一致で採択、今年の9月議会では『日米地位協定の抜本見直しを求める意見書』を全会一致で採択しました。これも市民の皆さんの運動の成果です。」と挨拶。1年間の盛りだくさんな活動を振り返り、「友愛の新婦人、つないだ手を離さずに助け合い、励まし合って平和・くらし・こどもを守るために行動を」と確認し合い、役員改選では、久世公子支部長・滝口洋子事務局長を再任し閉会しました。



くずさんの 夕張歴史散歩(102)

明治維新 19 / 朝鮮干渉 ③

亡命者「金」にたいして

一八八二年(明治15年)七月二十三日、壬午軍乱が起き、済物浦条約がむすばれ、同年十月朝鮮国の謝罪使として金玉均と朴泳考は訪日します。その際、福沢と親交を深めその思想に強い影響を受けます。

甲申事件の後に日本に亡命した金玉均を、福沢は三田の私宅にかくまっています。

しかし日本政府は、金玉均を最後まで保護せずに国外退去を命じます。これに応じない金玉均は、小笠原諸島や北海道などに身柄をたらいまわされ、冷遇されます。

しまいには朝鮮政府によって上海におびき寄せられ、暗殺のうえ六支の刑とされてしまいます。

福沢諭吉のさげすみ

甲申事件で謀略に失敗し、公使は逃げ帰り日本軍も犠牲者を出す始末でしたが、国内では、「断固清国と戦うべし」の声が高まります。もともと強硬に主戦を唱えたのは、福沢でした。「求むるところは唯、国権拡張の一点のみ」と書き、そして「脱亜論」を展開します。

これを要約すれば「日本は、皇室の尊厳によって新政府を立てた。支那(当時の清国の蔑称)・韓国は改革や進歩の道をつたない。主義とするのは脱亜の二字である。隣国が開明するのを待つ暇はない。むしろその仲間から脱失し、西洋の文明国と進歩を共にすべきである。心の中で東アジアの悪友を謝絶するものである。」と、中国と朝鮮をさげすみの目で見下します。

徹底したアジア蔑視、ヨーロッパ優位の脱亜入欧が、明治政府の外交思想になるのです。



岩渕 友「国会かけある記」
参議院議員

岩渕 友

民主主義破壊の暴挙に怒り

臨時国会が閉会しました。入管法や漁業法の改定案、水道法や日欧EPAなど、重要な法案を、まともな審議も行わないまま、数の力で強行した安倍自公政権。閉会後も辺野古への土砂投入を強行。民意無視、民主主義破壊の暴挙に怒りでいっぱいです。

考えが違ってもお互いの意見を出しあって審議を重ねる場所が国会ではないのか。国会の役割を深く考えさせられたのは、漁業法の審議をめぐる農林水産委員長の解任決議案に対する紙議員の討論でした。野党議員が求めた資料を水産庁長官が提出できると答弁したにも関わらず、提出もないまま質疑の強行を求めさせた委員長に出されたものです。

紙議員は委員長に「あなたは、沿岸漁業者の苦しみを理解していますか。イカの不漁で苦しむ漁師、クロマグロの漁獲規制を一方的に押しつけられて生活に困窮する漁師、サメが増えすぎてスケソウダラが獲れないと嘆く漁師、トド被害に苦しむ漁師、東日本大震災から復興する姿、原発事故から必死に立ち直ろうとする姿が目に入りませんか」と呼びかけました。

紙議員の目から涙がこぼれ、何度も言葉に詰まる姿に、野次を飛ばしていた与党議員も聞き入り、本会議場が静まりかえりました。「現場を置き去りにしてはならない」と漁業者の声を国会に届け、力を尽くした紙議員。この議席を今度も必ず参議院への決意を新たにしました。